

2022 年度第 5 回  
学校関係者評価報告書

実施日：2022 年 6 月 3 日（金）

2022 年 6 月

北斗会看護専門学校

学校関係者評価委員会

## 2022年度 第5回 学校関係者評価委員会議事録

### I. 学校長挨拶

お暑い中足を運んでいただきありがとうございます。本校の教育に関し、外部の方から客観的評価を頂き、より良い教育を目指すための参考にさせて頂きたく存じます。本日はよろしく願いいたします。

### II. 委員及び参加者紹介

#### <学校教職員>

学 校 長 高木 宏、 学校事務部長 井上 英二、  
副 学 校 長 石川 美佐子、 教務主任 並川 好美、  
実習調整者 藤田 美穂 …計5名

#### <委 員>

委員長 教育に関する分野の有識者、講師関係者として  
市山 喜代美 様

学校周辺の地域に精通する地域住民または地元企業関係者として  
未来SS義塾 豊中市保護区保護司会 地域での育成活動を行われている  
山本 和央 様

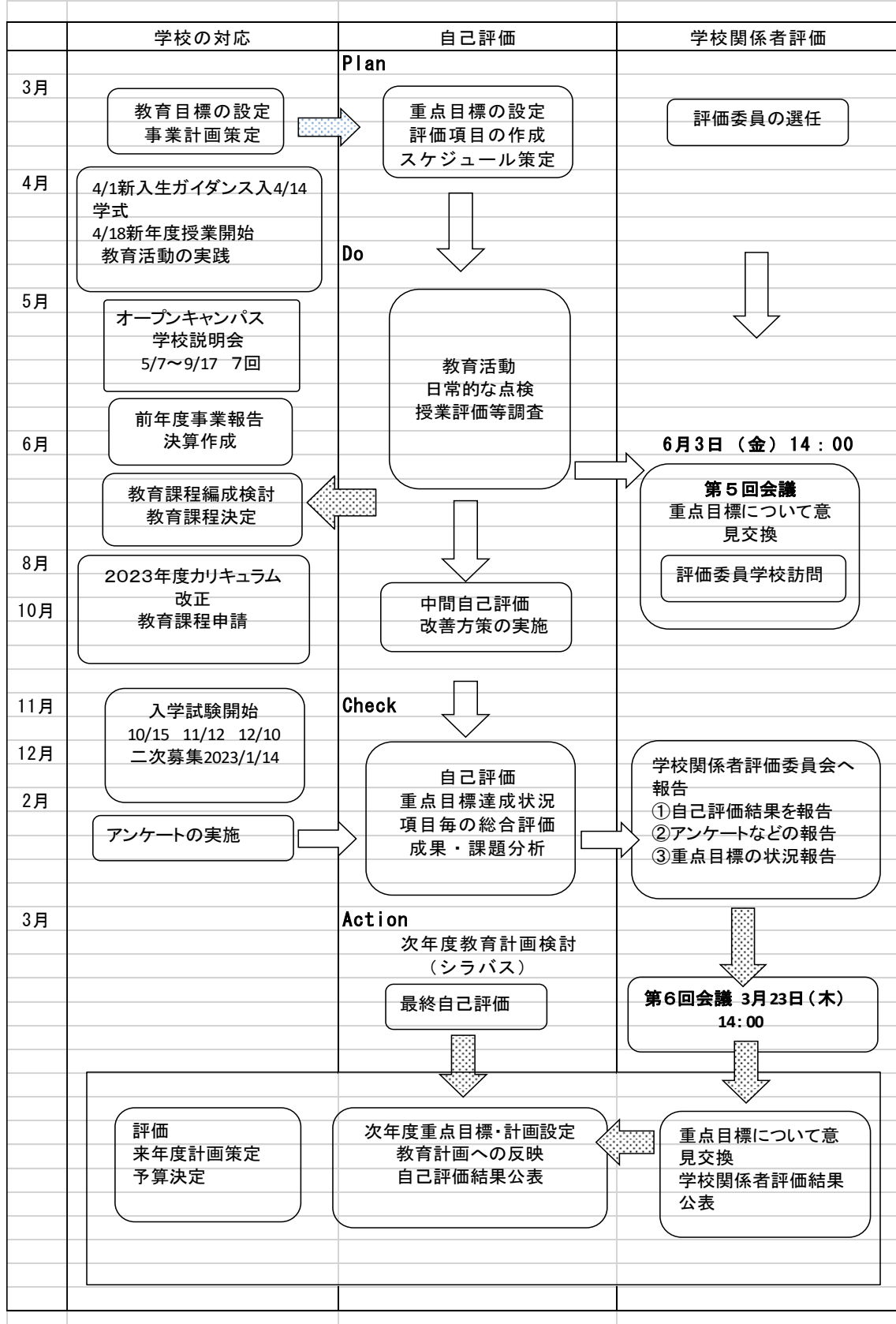
関連業界等関係者として学校周辺の病院施設および、卒業生の受け入れ実績を有する病院の管理者である  
公益財団法人唐澤記念会 大阪脳神経外科病院 師長  
村松 宏美 様  
…計3名

合計8名で構成されています。よろしく願いいたします。

### III. 学校評価の事業計画及びスケジュールについて資料に基づき説明

— 資料に基づき2022年度の学校評価のスケジュール概要説明 —

## 《2022年度北斗会看護専門学校 学校評価スケジュール》



#### IV. 2021 年度の自己評価に基づく今年度改善策について

##### 【改善策】

1. 新型コロナウイルス感染の状況は次年度も同様の状況にあると考える。感染防止対策と学習を両立させられるよう学習環境を整え、また、看護専門職としての健康教育、感染防止教育が行えるよう取り組む必要がある。重点目標として「感染防止対策と学生への支援」をあげ取り組む。
2. コロナ禍では、学習時間の確保と充実が課題である。リモート授業では学習習慣が身につけていない学生にとっては学習の習得も難しい。しかし、こういった中でも、1 年次から計画的に学習に取り組める工夫や学習指導を行い、日々の学習とともに、国家試験に向けて学習できる環境をつくる。
3. 2023 年度から新カリキュラムによって学校運営が展開される。教員個々の教育観の育成、育てたい学生像に向けた取り組みを強化し、教育理念、教育目的、教育目標を具現化できるよう臨む必要がある。そのため「指導力の向上」を重点目標とし、「基礎学力の向上」「社会人基礎力の向上」「思いやりと感性を育む」ことを目標に計画する。
4. 「定員 40 名を満たした魅力ある学校づくり」の目標は達成したものの、准看護学校の閉校や 2 年課程の学生充足率の低下が進んでいる中、学生を確保することは難しい。学生確保のあり方もコロナ禍で制限を受け、変化してきている。学校運営としては重要となる「定員 40 名を満たした魅力ある学校づくり」を充実させる。
  - 1) 受験者倍率 1.3 倍を目指し、学校の魅力をより多くの人に伝える取り組みの継続
  - 2) SNS を利用した情報発信
  - 3) オープンキャンパスの充実
6. 学生は就職へのニーズが高いのは当然である。学生が不利益とならないよう情報の発信と、いつでも相談をうけられるよう、就職率の向上に向けて支援体制を整える。
  - 1) 希望者就職 100%
  - 2) 大阪府内の就職率 80%
  - 3) キャリアガイダンスの充実

## V. 重点目標の説明 —資料に基づき重点目標と中期目標の概要説明—

新型コロナウイルス感染症の終息は未だ予測できない状況である。そのため、学生、教員間の関係性を築く機会と学習の機会が確保されるよう感染防止対策を十分に行い、学習支援を充実させる。

2023年度から新カリキュラムによって学校運営が展開される。教員個々の教育観の確立、育てたい学生像に向けた取り組みを強化し、教育理念、教育目的、教育目標を具現化できるよう臨む必要がある。そのため「指導力」を強化し、「基礎学力の向上」「社会人基礎力の向上」「思いやりと感性を育む」ことを目標に計画する。

### 【重点目標】

1. 感染防止対策と学生への支援
2. 指導力の向上

## VI. 意見交換

(山本) 現在、准看護師と看護師の比率は現在どうか。准看護師の数は多いか？

3年課程への変更も考えておられるか。

(石川) 地域によって様々。大阪府下では准看護師は比較的就業している。病院の特徴によっては准看護師の勤務者はいない病院もある。老人保健施設などでは准看護師の就業がある。まだ看護師の数が足りていないところもあり、看護師のニーズは高い。

- ・2年課程の学校が閉校となっている都道府県もあり、そういったところから募集要項の請求が届いている。
- ・今までに受験がなかった学校からの募集要項の請求や受験もある。このようなことから、本校へのニーズは高いと考えている。准看護学校がある以上、看護師を目指す学校は必要と考えている。

(市山) 学生や親の立場で考えると、学校はどんなところか知るためにHPは気になる。

- ・アンケートを見ると学校で取り組まれていることや学生の満足度が高いことがわかるが、HPにもそれがわかるように出せばいいのと思う。
- ・学校のHPを見たが、見ごたえがあり、良かった。もしかしたら、オープンキャンパスの時だけの良い対応ではないかなど考えてしまう。特にインパクトがあり、HPの印象が良かったのは、日頃の学校の様子を載せていたところ。こういった様子を見て、日頃からこのような対応、学生の様子なんだという事が伝わってくる。先生方が頑張っている様子も伝わってくる。
- ・どんな情報を見る人が必要としているのか考えていくことが必要。
- ・卒業生の様子などは、学生にとって将来の見通しがつくもので大切。
- ・学生の満足度が高い。学生の質も年々向上しているように思う。まじめに取り組んでいる。

- ・このようなことから、アンケートの結果は妥当だと思う。
- (並川) 講師会でも学生の質が高いというご意見が出ていた。入試倍率も上がり、入学時の成績も高くなっている。学びたい学生である。
- (村松) 学校の PR が大切であることが分かる。病院も同じでいろいろと取り組まなければいけないと思っている。動画などこれからは発信することが大切。
- ・貴校の就職者はまじめで誠実。技術はあとからついてくるが、取り組む姿勢が大切。
  - ・就職先の病院としては、就職した卒業生を通して、学校を見ている。
  - ・看護助手や准看護師として働いていた人が貴校に入学し、また、卒業した学生が就職してくるという良い循環となるとよいと考えている。
  - ・「社会人基礎力」の向上に向けた取り組みは大切。就職してきた人でも、家族に電話をすることはハードルが高いようで、電話もあまりしたことがない人にとってはマナーなど電話を掛けることが難しいようだ。
  - ・コロナによって実習現場にあまり出られなかったことで、就職して初めて現場で患者に接してする。その方にあった、日常の会話をすることも難しい。
  - ・学校でもロールプレイやグループワークなど経験していくことが良いと思う。卒業生からは、先生方が患者役をして実習を乗り切ったと聞いている。
- (石川) ここ3年、卒業した学生は実習も十分に行けなかった。演習も十分に行うことができず、卒業生本人たちが不安を抱えて臨床の現場に出ている。それを受ける臨床の方々も大変苦労されているのではないかと思う。
- ・電話をかけることなど、実習にも取り入れ、学生から実習場所に電話を入れることも設定している。できる限り実践に近い状況を体験できるように工夫していく。しかし、教員がいくら患者役をしても、やはり本物にはなれないので、難しさも感じている。できる限り、臨床現場に近づけられる努力はしていきたい。
- (山本) 前年度、前々年度の入試の様子を見ると、昨年度入試は約2倍の倍率と高くなっているが、その要因について分析はどのようにされたか。
- (石川) HP や SNS などでの PR 活動には力を入れた。遠方からの受験生、今までに受験をしたことがないような学校からの募集要項の請求が増えた。大阪でもそうだが、他府県では2年課程の学校が閉校し1校もないというところもある。そういったところから受験を希望する学生が増えているのではないかと考えている。これらのことから本校のニーズは高いと思われる。
- また、オープンキャンパスでは在校生との交流は好評で、オープンキャンパスに参加した人の受験率は高い。PR も大切だが、まずは在校生を大切に育てることが次に繋がること、人に伝わっていくことと考えている。5 年計画にもあけて、教職員全員で取り組んでいる。そこが本校の強みと思っている。経済的支援についても事務からのサポートが丁寧に行われ、学生の満足度も非常に高い。
- (山本) 今年病院に訪問されたという事だが、どのくらい行かれて、反応はどうでしたか。
- (石川) 今年初めて3月に北摂地域の卒業生が就職している2病院を事務部長と訪問した。

反応は良かった。学校に入学することや、就職についてなどお互いに意見交換できた。今回の反応をみて、今年度末にも訪問を広げられるようにと考えている。いろんな取り組みをして、学生の確保をしていきたい。

(井上) 本校の学生は年齢が10代から親と同等の世代まで幅広い。

- ・専門的なスキルに目が行きがちだが、先ほどの電話を掛けるなどの対応を考えると、いろんな学生がここで同じ教育を受けているので、世代の多様性を活かすこともできる。
- ・今年は入学式を1週間遅らせているが、3月まではそれぞれの生活をしていることもあり、感染防止策の一つとして行われた。学習を進めることも必要だが、学生には十分に説明し、教員と学生が一体となって同じ方向を目指そうとしていることがこのことからわかる。
- ・ご意見を頂いたように、PRをしていくことは大切と思う。

(山本) 地域共生という視点も大切。

- ・いろんな人と世間話ができるというようなことも必要。地域で夏祭りやサロン、0歳児と母親とのかかわりや介護予防センターの取り組み、高齢者と話をするなどいろんな取り組みをしているので、学校と地域と一緒に活動できればと思う。より連携を強められると良いと思う。

(石川) カリキュラムが改正される中で、地域の活動に参加する計画を立てている。小学校にもアプローチしたいと考えている。ぜひ、ご協力いただき、地域の中にある学校、地域と連携した活動を強化していきたいと考えている。

(村松) 准看護師として働く職員が貴校に入学でき、嬉しく思う。今回、学校がどのような取り組みをしているのか、聴くことができ良かった。卒業生を受け入れて、良い循環となると良いと思う。

(市山) 様々な対象に対して、その方の特徴をとらえて関わることを授業にも取り入れているが、それぞれの年代の特徴、興味なども考えて人と関わることは必要。授業の参考になることや学校のことをより知ることができて今日は学びが多かった。

(石川) 地域の中にある学校、地域と連携することは来年の新カリキュラムとなって強化をしていきたい。本日は、学校関係者評価委員会の方において、学校を知ってもらう機会となり、多くの成果が得られた。

## VII. 学校長による総括

地域との交流によって学校を知っていただくことができたとともに、我々も地域を知る機会となり、学ばせてもいただいた。本日のご意見やご提言を参考にして、今後学校の運営において誠実に取り組んでいきたい。

## VIII. その他

次回の会議、2022年3月23日(木) 14:00 本校にて 状況によってはWeb会議